

輸出商品・国外製造商品

サロンパス®ブランドは国外においても積極的な販売促進活動を展開し、アメリカのOTC医薬品(一般用医薬品)市場の鎮痛消炎貼付剤市場における販売額シェア

1位(2018年1月から2018年12月 累計販売金額)を獲得しています(Information Resources, Inc.)。

主な商品



Salonpas®が3年連続で販売シェア世界No.1ブランドに認定

ユーロモニター社より、「Salonpas®」がOTC医薬品(一般用医薬品)市場の鎮痛消炎貼付剤カテゴリーにおいて、2016年から3年連続で販売シェア世界No.1ブランドの認定を受けました。また、同カテゴリーにおいて「久光製薬」が2年連続で販売シェア世界No.1企業の認定を受け、2019年5月17日に認定証を授与されました。



対処すべき課題

国外の事業展開につきましては、知的財産、製造技術および品質管理技術を含めた当社ブランドの確立を図るとともに、国外生産工場の一層の充実と国外における臨床試験の促進を図ります。

特にアメリカの医療用医薬品事業においては、ノーベン社を拠点とし、双方の得意な技術を融合させることで、研究開発の機能を高めるとともに製造を強化してまいります。

商品別売上高

(百万円)

	2018年2月期実績	2019年2月期実績
モーラス®テープ群	183	186
その他	942	1,029
Minivelle®	7,628	6,098
Vivelle-Dot®群	4,839	4,190
CombiPatch®群	4,176	4,428
Brisdelle®	-116	0
Daytrana®	3,170	2,520
Noven その他	687	43
医療用医薬品計	21,512	18,497
サロンパス®群	18,671	21,772
サロンシップ®群	1,433	1,173
エア®サロンパス®群	722	732
その他	2,325	1,872
一般用薬品計	23,154	25,550

第三者意見



慶應義塾大学大学院
ビジネススクール教授
小林 喜一郎

ESG推進を発表した第6期中期経営方針の3年目に当たる本年においては、過去2年間を振り返りながら、この動きをより具体化し深耕する1年にしていければと思います。中富会長、中富社長もCSR報告書の冒頭で、統合的なESG推進のための組織の整備と基本情報の精査に言及されており、ますます久光製薬の社会責任領域の動きが加速するものと期待しております。

本第三者意見では過去1年間における新たな取り組み、あるいは前年度と比較して改善した点を中心に評価をさせていただきます。

まず昨年に引き続き、グローバルCSRの実態が取り上げられております。本年は医療関連市場の伸長著しい中国における久光現地法人に焦点が当たっており、現地社員のCSRへの意識が報告されております。中国では製造拠点こそありませんが、現地の人材を雇用し、製品販売を通じた現地市民のQOL向上を使命としながら、スポーツ振興や健康啓発活動、さらには現地人材のキャリアアップ支援などの活動にも力を入れていることは評価できます。また上海地区最大級の薬局チェーンであるSinopharm社代表を訪問し医薬流通側の要望をヒアリングしたことは、久光の標榜するステークホルダー・エンゲージメントが良く出ている活動であると思います。現地企業とも協力しつつ、CSR活動を共有・推進していこうという姿勢は評価したいと思います。海外と日本の売上比率を半々にするという目標を掲げる久光製薬は、今後もグローバルでの協力関係を模索しながら、久光製薬の理念とそれに裏打ちされたCSR活動を展開し、世界で評価される企業になって頂きたいと切に願います。

来年の東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャルパートナーである久光製薬は、同競技大会組織委員会に会社を代表して3名の方を出向させています。彼らのインタビュー内容からは、組織の外に出向されたことで、あらゆる人の集まる場における利害調整の難しさ、人権・多様性・安全性・持続可能性への配慮等、身をもって経験されておられます。これは久光社内でのCSRへの取り組みと相通じる課題でありテーマでもあります。東京2020組織委員会に参加された中堅の方々は、特に近い将来、久光内でのCSR活動のさらなる推進に貢献して下さることを期待しております。同時にスポーツを通じて社会貢献を積み重ねてきた久光製薬の方向性とも合致し、これ

をバネにさらなるスポーツCSR活動を加速して頂きたいと思っております。

久光製薬はグループを挙げてESG推進を目指していますが、中でも特にE(環境)に関わる環境マネジメントシステムISO14001と、S(社会)に関わる労働安全衛生マネジメントシステムISO45001の統合認証を目指し、活動を行っている聞いております。この統合認証が実現すれば、久光製薬の言うEHS(Environment, Health, and Safety)の社内的管理活動がさらにシステマティックになることが期待できます。

また久光製薬の技術的強みであるTDDS(Transdermal Drug Delivery System: 経皮薬物送達システム)をさらに深耕させ創薬を行いつつ、モーラス®、パップヤのびのび®、サロンシップ®などの改良薬も新たに販売しており、引き続き顧客との関わりを企業活動の中心に据えていることは良いことです。あわせて「久光製薬安全性情報」を年1~2回の頻度で発行しておられますが、実際に薬剤を処方する現場への情報ディスクローチャーはさらにタイムリーに行っていくて頂きたいと思っております。

従業員との関わりでは、グローバル人材の育成に引き続き励まされるとともに、女性活躍の場をさらに増やすなどの努力は評価できます。特にワークライフバランスはESGのSの重要な項目の一つであり、上昇傾向にある有給取得率の更なる向上努力を進めて頂きたいと思っております(WAKUWAKU連続休暇制度)。

環境(E)との関わりにおいては、トータルで見たエネルギー使用量・CO₂排出量ともに減少傾向にあります。工程の改善、スマートエネルギーの利用、サプライチェーンの改善は、「カイゼンに終わりはない」という気概を持って、さらにこれを進めていくことを期待いたします。また同社の歴史と伝統を発信する目的のもと2019年に完成した「久光製薬ミュージアム」という象徴的な建築物において、先端的省エネ技術を駆使し、佐賀県で初めてという建築物省エネ制度の最高ランク評価を獲得できたことは、久光製薬の姿勢を社内外に示す象徴的モニュメントとして非常に意味があると思っております。

昨今日本政府も、「SDGs(持続可能な開発目標)が創出する市場・雇用を取り込みつつ、国内外のSDGsを同時に達成し、日本経済の持続的な成長につなげていく」という目標を掲げ、社会を先導しております。さらには最近ではROESG⁽²⁾という指標を使って、企業の資本効率のみならず社会への貢献度を合わせた指標で企業をランキングする動きもあり、ますます企業の社会への責任活動が企業経営上重要性を増しています。この分野への取り組みで企業の真価が問われる時代となってきました。ESGも含め、CSRの深耕はまさに企業経営にとって待たなしになる中、久光製薬への期待は高まっていくでしょう。

(1)「持続可能な開発目標」(SDGs)について:SDGsを通じて、豊かで活力ある未来を創る、外務省、平成31年1月
(2)「企業の持続性重視へ新指標」、日本経済新聞、2019年8月12日1面及び3面
→ROESGは伊藤邦雄・一橋大学特任教授の提起した考え方で、ROEとESGスコアの合成指標。企業の資本効率性と社会・環境・ガバナンスへの取り組みを総合的に評価する指標。

久光製薬のCSR

コーポレート・ガバナンス

お客さまとのかわり

社会とのかわり

従業員とのかわり

環境とのかわり

経済とのかわり